

CHUOH TRY+ANGLE 知っ得通信

2018年4月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp>

MBA 中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.74 <塾経営を考える>

2018年度がスタートしました。この新学期の生徒集客は、どうだったのでしょうか。昨年同様の出来であれば、一安心です。もし、昨年よりも振るわなかったとすれば、どうしてだったのか。ここを4月中に分析し、今後に生かさなければなりません。

さて、今回は、塾の経営について考えてみたいと思います。塾の経営も会社の経営も、実は同じです。教育と経営は、両立するのが、難しいという人がいますが、そんなことはありません。教育を優先させようが、経営を優先させようが、矛盾しません。なぜならば、マーケットに信頼される行動を取らなければ、企業経営＝塾経営は、成立しないからです。

それでは、会社の経営とは、どういうことでしょうか。簡単に言えば、人を使って、会社の資源を有効活用しながら、売上を上げ、その売上げにかかる経費を最小に抑えて、利益を最大化すること、そう定義できます。つまり、経営の要素は、人財・売り物・それにまつわる経費ということになります。

それでは、学習塾の場合は、どういうことになるでしょう。自分や講師を使って、自塾にあるノウハウを有効活用しながら、経費をかけて集めた生徒を指導することによって学校の成績を上げ、指導の評判を作りながら、利益を最大化していくこと、そう定義できるかもしれません。

先の二つの定義を比較してもらえるとわかりますが、学習塾の経営は、一般的な会社の経営とは多少違ってきます。それは、自塾のノウハウが、如何に優れていようが、そのノウハウが、経費を使って集めてきた生徒と上手くマッチするかどうか、ここが大きなポイントなのです。そして、自塾のノウハウが良いかどうかを決めるのは、生徒の結果（学校のテストの点数や学校の教師の評定）であって、生徒でも保護者でもなく、学校の評価、つまり、実際のサービスに関わらない学校の評価に多く負っているのです。

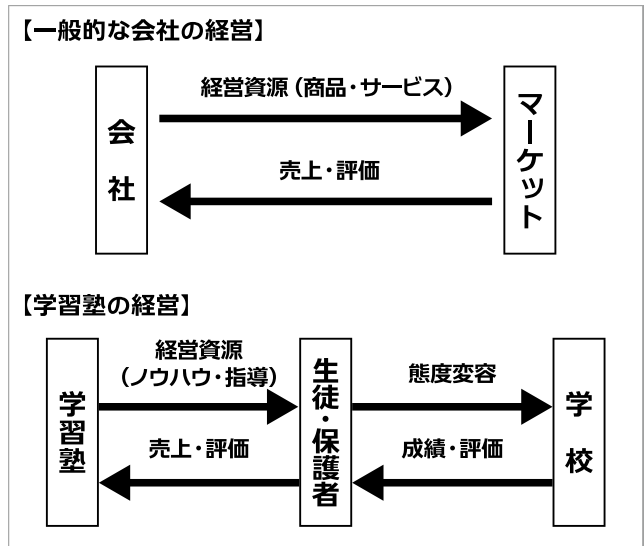
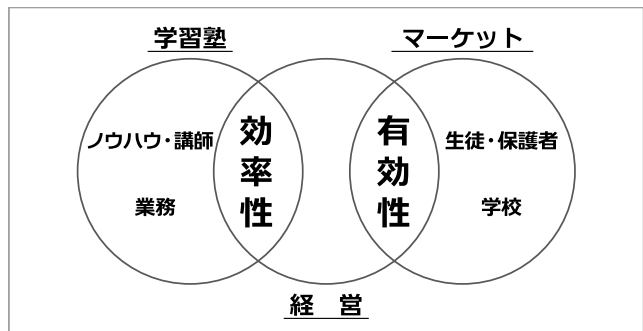
左記の概念図で言えば、学習塾には、第三項が経営上にあるということになるのです。この点が、一般の会社の経営とは違う点です。生徒や保護者対策をしていればよいというだけではなく、生徒や保護者が所属している学校の対策をしっかりしなければならぬということが、経営上のポイントになってくるのです。

実は、このことは、当たり前すぎて、読者の皆さんも、そんなことは知ってるよ！とまっていると思うのですが、ここが実は経営の成功を分ける大きな点なのです。それを実は蔑ろにしている学習塾が多いのです。

ということかという、生徒が通っている学校の先生の情報やテストを作る先生の情報もしっかり把握しているかどうか、そして、この学年の先生は、3年前はどの学年を持っていたかどうか、部活の顧問はどんな先生なのか、この辺をしっかり知って、生徒に指導をしているかどうかということなのです。

生徒を教えることに一生懸命で、教えたその先の結果について（生徒や保護者の向こうに隠れている学校の評価について）、思いを馳せることをしてきたのかどうかということなのです。

経営は、下のような概念図でも表すことが出来ます。マーケットに対して皆さんの塾は、有効なノウハウを提供しているのかどうか、そして、その有効なノウハウを提供するための塾内の業務は、効率的なのかどうか、この1年、この二つの側面をしっかり意識し、更に第三項の学校の評価を強く意識して学習塾経営に取り組んでみてください。



【編集後記】
【MBA セミナー復活第1段のお申込み受付中！】
 2016年に一旦幕を下ろしたMBAセミナーでしたが、皆様から多数のご要望を頂き、この度復活いたします！第1回目のテーマは「英語改革からの塾革命」。大きく変わる英語指導を起爆剤に、集客効果を最大限高めるためのノウハウをお伝えします。
 日程：■東京5月20日(日)
 ■大阪6月3日(日)
 ■名古屋7月1日(日)
 ▼セミナー・研修詳細はコチラ▼
<http://management-brain.net/mbaseminar02/>
 ▼お問合せはコチラ▼
 TEL 045-651-6922 Mail: mailadm@management-brain.co.jp

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.38

イギリスの教育専門誌『タイムズ・ハイヤー・エデュケーション』の発行元・TES グローバル社が先月末、日本国内総合パートナーであるベネッセグループの協力を得て選定した「THE 世界大学ランキング 日本版 2018」を発表しました。

京都大学が東京大学と並んで1位にランクされるなど興味深い結果が出ていますので、今回はそのトップ100を紹介しましょう。

その前に、まずは選定に際しての評価の基準です。

公表されている評価基準は、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」という4つの分野の合計13項目で構成されており、大学の教育力が総合的に評価される形になっています。

以下、詳細に記載しておきましょう。

1. 教育リソース (どれだけ充実した教育が行われている可能性があるか=全体の34%を配分)

- ① 学生一人あたりの資金 (8%)
- ② 学生一人あたりの教員比率 (8%)
- ③ 教員一人あたりの論文数 (7%)
- ④ 大学合格者の学力 (6%)
- ⑤ 教員一人あたりの競争的資金獲得数 (5%)

2. 教育充実度 (どれだけ教育への期待が実現されているか=全体の26%を配分)

- ① 高校教員の評判調査: グローバル人材育成の重視 (13%)
- ② 高校教員の評判調査: 入学後の能力伸長 (13%)

3. 教育成果 (どれだけ卒業生が活躍しているか=全体の20%を配分)

- ① 企業人事の評判調査 (10%)
- ② 研究者の評判調査 (10%)

4. 国際性 (どれだけ国際的な教育環境になっているか=全体の20%を配分)

- ① 外国人学生比率 (5%)
- ② 外国人教員比率 (5%)
- ③ 日本人学生の留学比率 (5%)
- ④ 外国語で行われている講座の比率 (5%)

では、今回の日本の大学トップ100です。

■総合

順位	校名	順位	校名	順位	校名
1	京都	36	熊本	71	茨城
2	東京		首都大学東京	72	静岡
3	東北	38	豊橋技術科学	73	岩手
4	東京工業	39	東京医科歯科	74	明治学院
5	九州		山口	75	関西外国語
6	北海道	41	東京海洋		鳥取
7	名古屋	42	京都工芸繊維	77	宮崎
8	大阪	43	長崎		名古屋市立
9	筑波		大阪市立	79	愛媛
10	慶応義塾	45	関西		富山
11	早稲田	46	横浜市立	81	北九州市立
12	国際教養	47	山形	82	日本
13	広島	48	芝浦工業	83	神戸市外国語
14	一橋	49	近畿	84	高知工科大学
15	上智	50	青山学院		成蹊
16	国際基督教	51	中央	86	秋田県立
17	東京外国語		新潟		獨協
18	神戸	53	法政	88	武蔵
19	千葉	54	信州		龍谷
20	金沢	55	電気通信		静岡県立
21	長岡技術科学		津田塾	91	香川
	立命館アジア太平洋	57	福井	92	京都外国語
23	立命館	58	秋田	93	金沢工業
24	九州工業	59	名古屋工業	94	甲南
25	岡山	60	南山		東京農業
25	横浜国立	61	学習院	96	京都産業
27	立教	62	福岡女子	97	岐阜
28	同志社	63	佐賀	98	東京女子
29	東京農工	64	群馬	99	琉球
30	東京理科	65	大阪府立	100	愛知県立
31	関西学院	66	東洋		名古屋外国語
32	お茶の水	67	宇都宮		
33	神田外語	68	鹿児島		
34	会津		豊田工業		
35	明治	70	埼玉		

分野別のランキングも記載されていますので、こちらで紹介しておきましょう。大学名のうしろのカッコ内の数字は総合順位です。

まずまず当然と思われる大学が上位に来ていますが、「総合」の20位以下や「国際性」などには意外な大学がいくつも顔を出しています。

偏差値や学力だけで志望大学を選ぶ時代は終わりつつあるのかもしれない。

■教育リソース

順位	校名	総合順位
1	東京	1
2	京都	1
3	東北	3
4	東京医科歯科	39
5	浜松医科	141-150
6	滋賀医科	141-150
7	兵庫医科	151以下
8	東京医科	151以下
9	札幌医科	141-150
10	大阪	8

■教育充実度

順位	校名	総合順位
1	国際教養	12
2	東京	1
3	京都	1
3	東北	3
5	早稲田	11
6	慶応義塾	10
7	筑波	9
8	大阪	8
9	九州	5
10	東京工業	4
10	国際基督教	16

■教育成果

順位	校名	総合順位
1	東京	1
2	京都	1
3	九州	5
4	慶応義塾	10
5	東北	3
5	名古屋	7
7	大阪	8
8	北海道	6
9	東京工業	4
10	早稲田	11

■国際性

順位	校名	総合順位
1	国際教養	12
2	立命館アジア太平洋	21
3	国際基督教	16
4	東京外国語	17
5	上智	15
6	京都外国語	92
7	名古屋商科	111-120
8	名古屋外国語	100
9	東京国際	151以下
10	神戸市外国語	83